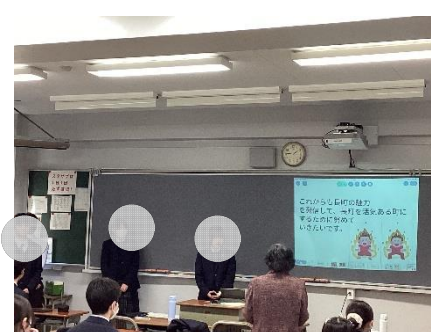
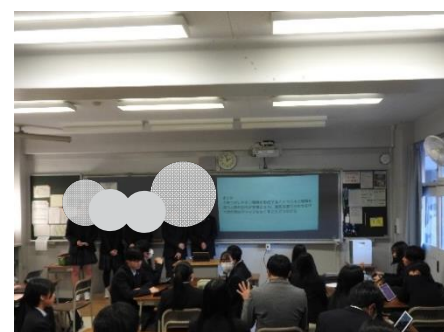
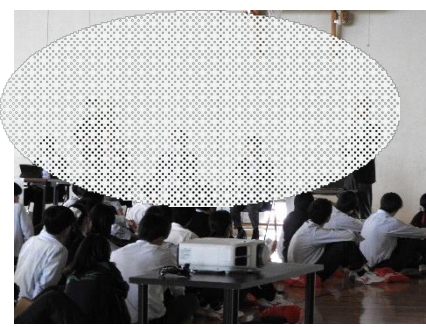


志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☒ はたす
------------	---

活動名	課題研究
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	1・2・3学年
ねらい	「興味・関心」と「社会」をつなげる。

【実践内容】

本格的な課題研究への取組は今年で10年目を迎える。この間、よりよい在り方を目指し、展開方法や実施形態、予算計画、諸団体との連携体制の見直しと再構築など、多方面から模索を続けてきたところである。現時点では、大筋のところでは本校としての1学年では、例年に倣い「地域課題研究」として、地域の商店街や企業、行政機関、学術機関など、各団体と連携した課題解決型探究学習の実践を行った。今年度は新たに太白区役所に設けられている長町地区活性化推進室とも連携し、地域課題について考える視点を広げた。「生徒を街に」のコンセプトは一貫してもち続けてはいるものの、フィールドワークなど生徒が学外に出て活動し見聞を広げる活動を今ひとつ活性化できず、次年度への課題を残す形となった。しかしながら、地域団体の方々のご尽力や、意欲と熱意に溢れる生徒たちの熱心な活動が学年全体に良い影響をもたらし、地域課題に目を向け、様々な研究手法を用いて、課題解決のための協働的な学びを実現するという1年次の目標については、概ね良好な成果を得たものと感じている。2学年では、これも例年に倣い「課題研究」を展開したが、今年度は、「防災・復興」「子ども・教育」など16の分野を設定し、分野毎に生徒から希望を取った。そして、それぞれの分野の中で更に個々の希望に応じたグループ編成を行い、協働的な学びが実現できるよう工夫した。それぞれの分野には学年から担当教員を割当、指導や助言等に当たっていただいた。また、中間発表会および最終発表会では、アドバイザーとして、山形大学、東北大学、宮城教育大学から学部生・大学院生を招き、分野毎に各グループの研究発表を見ていただき、助言や講評をいただいた。年齢的にも近く、また各大学で日々研究活動を行っている学部生・大学院生からのアドバイスは、生徒の目線に立った極めて的確かつ示唆に富んだもので、生徒のみならず教員にとっても大いに学びを深める機会となった。なお、最終発表会で評価の高かったグループは、次年度5月の実施を計画している「3年代表者研究発表会」において、全校生徒の前で研究発表を行う予定である。3学年では、「代表者研究発表会」において、例年とは異なり、他校生および専門家を招いての発表会を実施した。活発な質疑応答や専門家の実践的な講評をとおり、探究活動に対する視野を大いに広げることができた。



志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	進路講演会、「いきいきキャリアスタート事業」
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	進路講演会… 1・2・3学年、「いきいきキャリアスタート事業」… 2学年
ねらい	「将来」と「今」をつなげる。

【実践内容】

「進路講演会」は、社会や学問の場で活躍する社会人を講師としてお迎えし、講演をいただく進路行事である。生徒が社会や学問に目を向け、視野を広げるとともに、自己と社会の関わりについて認識を新たに、自らの興味・関心に基づく理想的な進路について模索し、そして、自身の生き方や在り方について考え直す契機とすることを主たるねらいとしている。また、学習活動や特別活動に主体的に取り組む内発的動機付けへと結びつけることも大きなねらいの一つである。将来の見通しをもちながら、日々の学びを実践していくうえで大きな意味をもつ学校行事である。

今年度は、3学年において、5月下旬に東京大学より宇野重規（うのしげあき）教授をお招きし、社会に出てから求められる思考力、判断力、表現力、論理構成力、情報発信力などをテーマに、グループディスカッション形式のワークショップを織り交ぜた講演を実施していただいた。大学入試対策という次元にとどまらず、将来を見据え、社会人として必要な資質・能力について理解を深めるよい機会となった。また、1・2学年では6月・12月、3学年では4月・6月・7月・11月・12月に、本校進路指導部長（3学年においては3学年主任）による進路講演会を行った。講演内容は、実施時期に合わせ、各学年それぞれの生徒の進路実現に生きる内容を精選し、本校における進路指導の状況や進路達成のために必要な条件等について共通理解をもち、進路意識の高揚を図るとともに、進路目標を再確認させ、その実現に向け見通しを持って計画を立てていくための契機とした。実施にあたっては、県総体直後、受験対策演習スタート時期（3学年）、長期休業直前、修学旅行直後（2学年）、など、大きな行事を終えた直後や長期休業の直前など、進路意識を高める上で効果的であると思われる時期に設定するなど工夫をした。進路意識の昂揚は、よりよい進路実現を果たしていくうえで不可欠であり、さらには、自身のキャリア形成にとっても極めて重要な要素である。今年度も、各学年の生徒にとって、将来の進路選択や生き方の模索に役立つ、充実した時間となった。

また、2学年では、12月に宮城県男女共同参画推進専門監をお招きした「いきいきキャリアスタート事業」を実施した。この事業は、新しい社会の在り方や新しい社会における自分の生き方について理解を深め、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革、男女共同参画など世の中や社会について知見を広げることを目的とした取組です。この日は、同専門監の他、民間よりファシリテーター7名とゲストトークの講師として本校卒業生1名が来校した。講演だけでなく、ワークショップやグループディスカッションも取り入れ、事業をとおして学んだことをフィードバックする時間も設けるなど、理解を深める工夫をした。新しい時代における社会の在り方、仕事への向き合い方、性差の捉え方、クオリティオブライフなどに関しては、高校生にとっても男女を問わず、十分に考えを深めておく必要のある事柄である。専門監からの講話および各クスでのファシリテーターによるワークショップ等をとおし、各生徒とも新しい社会やこれからの自分の生き方について大いに視野を広げることができた。



志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☒ もとめる ・ ☐ はたす
------------	--

活動名	キャリアセミナー
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	1 学年
ねらい	「仕事」と「今」をつなげる。

【実践内容】

本校では例年１０月初旬に、本校卒業生を主な講師としてお招きした社会人講話「キャリアセミナー」を実施している。社会人からの講話やその後の交流を通し、目標を持つことの大切さ、夢を諦めずに追い求めることの大切さ、努力を継続することの大切さ等について理解を深める一方で、社会の一員になるとはどういうことか、社会的責任を負うとはどういうことか、給与を得るとはどういうことか、人の役に立つとはどういうことかなど、社会人として生きていくことの厳しさや求められる心構え等についても理解を深める。社会人講師の豊富な経験をヒントに、これからのキャリアを考える機会としている。

今年度は、診療放射線技師、会社員、個人事業主など、多様な職業・役職に就く社会人の方々を９名をお招きし、講話をいただいた。それぞれの職業における業務内容や果たすべき社会的責任、社会との関わり、必要となる資質や能力など、これから社会人になろうとする生徒たちにとって、意義深い、充実したお話をいただくことができた。同時に、高校生のいま身に付けておかねばならないこと、経験しておいてほしいことなど、高校生としての目線から今を見つめる視点も提示していただき、学習、部活動、生徒会活動、委員会活動など、日々の教育活動の意味や目的について見つめ直すよい機会となった。

日常において、高校生が一般の社会人と接する機会は、自身の保護者を除き、おそらくそう多くはないはずである。ましてや、仕事とはどういうものか、社会で生きるとはどういうことか、などを近親者以外の他者から知る機会など、めったにないものと思われる。そうした中であって、このキャリアセミナーは、仕事というものと生徒たちの今・現在をつなげるうえで貴重な取組と言える。講師の多くが本校の卒業生であるという点も大きな観点であろう。同窓生の活躍を本人から直接聞くことのできる機会でもある本取組は、生徒一人ひとりの進路実現のモチベーションを育むうえでも効果的であると捉えている。



志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

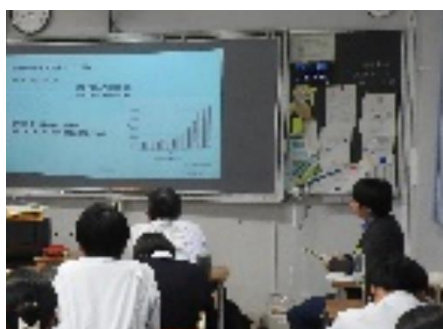
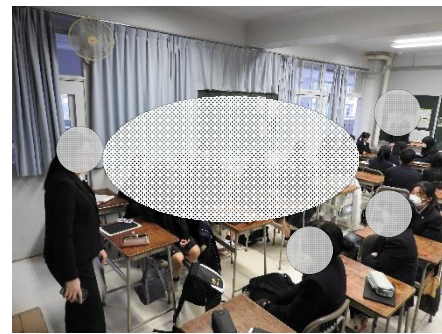
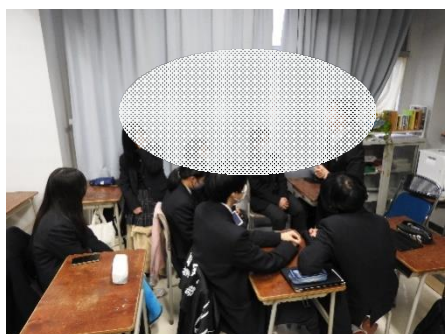
活動名	東北大学教職実践演習、「課題研究」における指導・助言
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	東北大学教職実践演習・・・1学年、「課題研究」における指導・助言・・・2学年
ねらい	「大学生」と「今」をつなげる。

【実践内容】

「東北大学教職実践演習」は、大学生および大学院生との交流行事である。本校では例年、教員免許取得を希望する東北大学の学生および大学院生が来校し、模擬授業および座談会を行っている。模擬授業では、大学生・大学院生より大学での研究内容についてその一端をご紹介いただく。座談会では、特に高校時代の学習状況や大学での学び、大学生活、サークル活動、将来の目標等について語っていただく。受験対策について理解を深めるだけでなく、大学で学ぶことの意義や現在の高校での勉強が将来どのような形で必要になるのかということについてもお話しいただき、生徒の認識を新たにすることをねらいとしている。進路目標の明確化を促す一助としても欠かせない行事である。

大学生（大学院生）の姿は、生徒たちにとって、ある意味でもっとも身近な「将来の自分像」である。高校卒業後の自分の在り方を模索するうえで、比較的年齢の近い大学生のお話は、身近で興味深く、新鮮味があり、大学というものをより現実味を帯びたものとして捉える上で非常に効果があると言ってよいだろう。さらに、1学年の12月という時期は、2学年進級を見据え、進路意識を高めるうえで重要なタイミングでもある。その機会を逃すことなく、大学生との交流をとし、自分自身の今を見つめさせることが本取組のねらいである。

また、今年度は、2学年における「課題研究」の中間発表会および最終発表会でも学生の方々の協力をいただいた。各班の研究発表に対して、指導・助言を行っていただくというものである。いずれも、山形大学、東北大学、宮城教育大学より計8名の学部生・大学院生をお招きし、分野ごとにわかれて研究発表を見ていただき、疑問に感じた点や研究内容として不足する点、よりよい研究にするための改善点等について、アドバイスを頂戴した。日々研究に打ち込む学生の方々の視点はたいへん鋭く、また、助言も的確で、生徒だけでなく教員も見識を深めることができた。



志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	①仙台市主催社会実験「長町ストリートアクション えきまえ de 学祭」における研究発表、 ②「みやぎの子ども未来博」での研究発表、③「みやぎ高校生フォーラム」での実践発表
教科・領域等	生徒会活動、総合的な探究の時間
活動学年等	
ねらい	「志」と「地域」をつなげる。

【実践内容】

11月、長町駅前にて実施された仙台市主催による社会実験「長町ストリートアクション」において、本校自然科学部の1・2年生2名が研究発表を行った。これは同実験の中の「えきまえ de 学祭」と名付けられたイベント日に実施したものである。この「えきまえ de 学祭」は、長町駅前において学術的な催しを様々な形で地域の方々に発信し、共有することを主旨としたものである。「地域に開かれた学校」「地域とともにある学校」という言葉を近年よく耳にするが、学内での研究成果を地域の方々に向けて発信することの意義は非常に大きい。この日も数多くの地域の方々が足を止めて発表に耳を傾けてくださり、地域との結びつきを強く実感することのできた一日となった。

12月、宮城県行政庁舎で開催された「みやぎのこども未来博」にて本校生が研究発表を行った。参加したのは、自然科学部の2年生1名、課題研究農林水産分野班の2年生2名の計3名である。ワークショップでの他校生との協働的な活動や各校の研究発表をとおし、地域との関わりの中で自分の志をどう育むか、志を行動としてどう具現化するかなどについて理解を深めることができた。例年県内各校の優れた研究成果発表を見ることができるこの「みやぎのこども未来博」は、探究活動の深化を図る上で貴重な機会である。

同じく12月、「みやぎ高校生フォーラム」にも参加した。今年度も、生徒会長および生徒会副会長の2名が参加し、「総合的な探究の時間」における「地域課題研究」および「課題研究」について、研究テーマや地域との関わり方など、その具体的な活動内容を紹介するとともに、フィールドワークや研究活動の時間が十分に足りていないなどの課題について提示し、意見交換の材料とした。

